

会 議 録

1 会議名

第2回上越市立図書館協議会

2 報告（公開）

- (1) 平成26年度（4月～10月）図書館の利用状況について
- (2) 平成26年度（4月～10月）図書館の事業実績について

3 開催日時

平成26年12月2日（火） 午後3時から4時15分まで

4 開催場所

上越市立高田図書館 第1会議室

5 傍聴人の数

なし

6 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：有澤委員長、丸山副委員長、河村委員、大越委員、上原委員、池田委員、
武江委員、荒木委員
- ・ 事務局：高田図書館 佐野館長、植木副館長、栗本係長
直江津図書館 笠原館長、平田副館長

7 発言の内容（要旨）

<上越市立図書館条例施行規則により有澤委員長が議長となる>

○ 平成26年度（4月～10月）図書館の利用状況について

事 務 局：別紙資料1により概要説明

丸山副委員長：昨年と比較すると実績が全体的に落ちているが、何か理由、原因があるのか、分析はしているか。

佐野館長：はっきりとは分からないのが現状。少し時間をかけて整理・分析したい。

有澤委員長：根本的な理由、原因は慎重に分析されると思うが、私が伺った時もちよっとガラッとした雰囲気を感じられた。

栗本係長：土日が混んではいるのだが、昨年よりは混んでいない。

河村委員：土日はとにかくイベントが多い。あちらこちらで行われている。図書館へ

来れないのではないか…。

有澤委員長：以前は小中高生が土日の休みの時に、図書館が学校の受け皿となっていたものだが。

荒木委員：土日の利用が少ないという一つの理由は、推測ではあるが、図書館を利用する層の高校生の土日は、ほとんど土曜講座や特別講座、模擬試験等が入っており、それが図書館の活用に影響しているのではないかと思う。

大越委員：土日の週休二日制が定着し、小中学生がスポーツ・音楽等習い事をするようになったため、図書館に来なくなった。土曜日のおはなし会を20年近く続けてきたが、週休二日制を境に子供たちが来なくなった。ただ、(資料の)この数字を見ていると、高田図書館の個人の貸出者数が大きく減っており、その辺はどう考えたらいいか。

佐野館長：高田図書館の個人貸出の減り方が極めて大きい。これは当然何か理由があるのだが、例えば日報を昨年と比べてみて、気候的な問題なのか、図書館そのものの魅力の問題なのか、要因を調べたい。本を読まなくなったと笑って済む問題ではない。

上原委員：観桜会の時には、トイレを借りに来る人はいても図書館へは来ない。高田開府400年事業や新幹線開業を控え、今年はとにかくイベントが多すぎた。来年は元に戻るかも知れない。

佐野館長：高田図書館の傾向として、やはり土日が主。前に比べるとやはり混雑度が少し薄いか。利用者目線でも、足りない点などあればお教えいただきたい。図書館ユーザーからすると観桜会が迷惑という声を聞くこともあるが、そこは市全体を考えて御理解いただきたい。

○ 平成26年度(4月～10月)図書館の事業実績について

事務局：別紙資料2により概要説明

丸山副委員長：リサイクルブック市はお持ち帰りがかかなりあるということで有効な古本の活用かと思うが、利用具合の印象はどうか？

佐野館長：絵本や紙芝居など子供向けの資料が極めて好評。開始後、最初に無くなってしまう。子供向け資料の確保が課題となっている。

有澤委員長：本の状態が良ければ回して活用していける。

佐野館長：ブックリサイクルの仕組み自体は歴史的にも長く、定着してきている。おそらくどこの図書館でも行っている。先日、県立図書館に会議で行った際、古本市の準備をしていた。これは市内の書店組合あたりが主催し、実際、本は販売するのだが、本に親しむという意味で大変参考になった。当館としても今後こうした仕掛けの研究をしていきたい。

有澤委員長：業者とタイアップして行う考え方もある。

上原委員：頸城では、大越委員はじめみなさんがワンダーランドで活躍されている。10月31日、1日だけの「本に親しむつどい」での参加者160人は素晴らしい。また、高田・直江津をはじめ各区で行われているおはなし会も定着して続けられており、歴史の蓄積がある。素晴らしいことである。

大越委員：これには仕掛けがあり、10月31日から11月2日の「くびき文化祭」で小学生の合唱や合奏、劇などの発表会が開催され、大勢の子供たちが集まる。これとドッキングして実施したもの。図書館単独でなく、ほかの部署との横の繋がり、連携が大切と思う。

河村委員：「図書館長の読書ノート」は良い試みだ。今度は市長や北城高校長などもお願いしてはどうか。

佐野館長：図書館に来てから（勤めてから）3年。何を読んで何を感じたか読書記録を付けていた。“選んだ”というよりも、読書初心者の図書館長が「こんな本を読んで面白かった」と紹介することで、今度は皆さんから本を手にとってもらえれば…ということから始めたもの。ポップも字数を100字位にして分かりやすいよう工夫した。

武江委員：テーマ展示などはヤングだけでなく、もう少しシニア向けのものも希望する。私は環境を考える方なので、暑い日や寒い日にシニアに図書館に来てもらえれば、電力の消費量も節約でき地球環境にも良い。シニア向けの仕掛けをお願いしたい。

佐野館長：省エネが叫ばれた特に震災以降は、公共施設の活用を市としてもアピールしたこともある。夏の暑い日に図書館で涼みながら本を読みませんかとアピールしてもいいのかなとも思う。外に出るだけでも良い運動になる。

上原委員：高田、直江津、各分館分室を含めて、利用者間での会「友の会」ができれば

ばいいなと考える。丁度今、NHK「朝の随想」という番組の中で、新潟中央図書館の利用者でつくる友の会の会長さんが良い話をされている。それこそ、今ほどの（シニアの）皆さん方の生きがいにもなったりするのではないか。

○ その他

（自動車文庫について）

佐野館長：自動車文庫が限界にきている。（予算編成時に）殆ど小学校を廻っている現状を捉え、学校図書館との重複、いわゆるダブル投資になっているのではないかと指摘を受けている。9月議会（委員会）の中でも、本来は学校図書館をより充実すべきとされ、今年、車の5年のリース期間が終了することもあり、昭和36年から始まり50年の歴史を有する自動車文庫ではあるが、本来の役割を終えたのではないかということで、今年度を以て廃止することになった。この10月から全ての学校、ステーションマスターを回って説明し御理解をいただいていた。極めて残念という声もあったが、今後は団体貸出の制度等、別の方法で子供たちに本を読んでもらう努力をしていく。

（浦川原分館の移転オープンについて）

事務局：別紙資料により概要説明

大越委員：先日、新潟日報「声」の欄に一般の人から自動車文庫の廃止が非常に残念だという内容の記事が載っていた。今後こうした一般ユーザーにどう応えていくのか。

佐野館長：図書館長宛て、教育長宛て、厳しいお叱りの手紙をいただいた。お会いいただけないので電話をし、最後は納得されたというか「仕方がない」と諦められた。自動車文庫が限られたところしか行けなかったため、（新聞に投書された）ほかにも図書館まで足を運べないお年寄が多くおられたのも現実。今後は、例えば13区総合事務所を核にして、高田（図書館）の本、直江津（図書館）の本を個人がパソコンをお使いでなくても借りられるようなアクセスポイントができないか、また、図書の貸出システムが2年位で更新になるが、これも含めて色々な検討をしていきたいと思う。

8 問合せ先

教育委員会高田図書館 TEL : 025-523-2603

E-mail : t-toshokan@city.joetsu.lg.jp

別添の会議資料も併せて参照ください。